

「CADL」がケアマネジメントを変える!

23年 4月号

CADLプランニングの拠所は「シンクロ」と「ストーリーライン」。一人ひとりの「じぶん物語」を支えるCADLのValue(価値)がここにある。

CADLで課題設定するとケアプランのプランニングとチームケアに納得感が生まれ、前向き&意欲的にケアマネジメントを行うことができます。

CADLとは?

文化的日常生活行為(Cultural activities of daily living)のこと。ICF(国際生活機能分類)に依拠し、参加・活動を含む日常生活で行う本人の「文化的な生活行為及び要素」をいう。「自分らしさ」を尊重した「生きて在ることへの肯定」を、理論的に支えることを目指す。本連載の筆者高室しげゆき氏が提唱。



第2回「CADL」のプランニングは「ストーリーライン」発想で!

CADLプランニングがめざす「4つのシンクロ(共鳴効果)」

CADLは「本人(自分、私)らしさ」を尊重し、人生の「役割・居場所・生きがい」づくりのために「4つのシンクロ」をめざします。

・「ゴールと意欲・動機」がシンクロ

本人のCADLに着目し、意欲・動機づけられるように「課題」を表記します。ADL・IADL、健康状態、意思疎通、精神・認知機能の改善は「ステップ」となり長期・短期目標に位置づけられます。

・「多様な支え手」がシンクロ

CADLでは、多様な支え手とは介護・医療専門職だけでなく、仲間や友人、共通するCADLの人、専門ショップの店員さんなどを協力者として位置づけます。

・「可能性発見と深掘り」がシンクロ

CADL支援では、「できること・できそうなこと・できるといいな」の視点で可能性を探すことにベクトルを向けます。インフォーマルの協力者ならではの知識や技術、人脈を活用すれば予想外の楽しい展開が期待できます。

・「チームのまとまりと元気」がシンクロ

支え手・協力者たちがまとまり「可能性を探すこと」に本人は動機づけられ、チームのモチベーションは高く維持されることとなります。

ロジックツリーで「ストーリーライン」あるプランニング

CADLプランニングでは思考プロセスを見える化するためにロジックツリーを使います。CADLの課題達成のために求められる要因を分解し、その要素を長期目標・短期目標に組み込みます。

「階層」にはADL(生命機能)、IADL(暮らし機能)、意思疎通、精神・認知機能、健康状態を位置づけ、それぞれに対応策(支援内容)と専門職と協力者を決めます。プランニングでは利用者の「人生の物語づくり」を意識し、この全体図(ケアプラン第2表)を「ストーリーライン」(物語の流れ)と呼びます。

ストーリーライン・プランニングの流れを解説します。プランとは未来形のことです。「仮説思考」(仮の見通し→仮の設定→整合性の検証と漏れチェック)で組み立てます。

1. まとまり課題の設定

意欲動機づけシートなどから抽出された複数の課題を「まとまり課題」(一石三鳥~5鳥:メインストーリー)として重ねることによって複数の阻害要因に改善の相乗効果が見込まれる。表記は前向きでポジティブなものとする。

複数のまとまり課題に優先順位をつける際は「期待できる効果、実現可能性、意欲レベル、コスト(時間、手間、費用、支え手)」などを基準とする。

2. 長期・短期目標及び期間の設定

課題実現の阻害要因をADL、IADL、意思疎通、精神・認知機能、

変わりゆく時代のケアマネジャー応援誌

月刊 ケアマネジメント

5月号

特集

描こう! あなたの未来図 福祉業界でキャリアアップ

特別企画
ケアマネは利用者の人生を左右する「要」「有資格者」から「プロ」へ飛躍を

好評連載
「CADL」がケアマネジメントを変える!
「CADL」のプランニングは「ストーリーライン」発想で!

視点
「非言語情報」が与える影響
—「伝える」ことの重要性—

https://www.care-m.net/ 発行所



ケアマネは利用者の人生を左右する「要」「有資格者」から「プロ」へ飛躍を

「CADL」がケアマネジメントを変える!
「CADL」のプランニングは「ストーリーライン」発想で!

「非言語情報」が与える影響
—「伝える」ことの重要性—

https://www.care-m.net/ 発行所

ストーリーラインでプランニングの一例



注:スペースの関係でシンプルな表記となっています(筆者)

健康状態の「階層ごと」にサブストーリーで分け、改善のステップをロングストーリー(長期目標)で整理し、約3か月~6か月以内に取り組み項目をショートストーリー(短期目標)とする。期間は目安であり、「ゆるめ」に設定する。

3. 支援内容(短期目標ごと)の設定

短期目標ごとに設定する支援内容が具体的に取り組む「アクションタスク」となる。タスクごとに番号を付け「何を、どのように行うか」を表記する。リスクを表記し注意点を示す。

4. 事業所・支え手・協力者の設定

アクションタスクの担い手にも取り組むタスクごとの番号をつけ、介護事業所・医療機関、支え手・協力者を具体的に表記(所属、名前)する。新たな情報や提案が得られた場合、随時柔軟にバージョンアップをしていく。

以上の流れで行いますが、プランニングで大切なのは制約を設けずに多くのアイデアを出すこと。ブレインストーミングスタイルで楽しくクリエイティブにプランニングするのが拠所です。

ゴルフ好き80歳男性(脳梗塞:要介護2)のCADLプランニング

〈基本情報〉

元社長の岩男さん(ゴルフが得意・甘党)は妻と同居。2年前、早朝のゴルフ場にて脳梗塞で倒れ、右半身麻痺で要介護4となる。リハビリで要介護2まで改善する。顔面麻痺あり。半年前、前立腺がんを発症。手術で体力と意欲が極端に低下。長男夫婦は隣市、長女夫婦は隣県在住。行き来は少ない。

1. メインストーリー(まとまり課題)

意欲動機づけシート*の聴き取りから抽出された「本人の意向」は4つ。
・孫娘(27歳、趣味はゴルフ)や長男と一緒にゴルフコースを回りたい
・老舗そば屋八助で蕎麦を食べたい
・ペットのポコ(8歳の犬)と散歩したい
・カラオケで吉幾三を歌い上げたい

ここから犬のポコと散歩できるように体力をつけ、「長男・孫娘とのゴルフを楽しむ」メインストーリー(まとまり課題)を設定する。

2. ロングストーリー(長期目標)・ショートストーリー(短期目標)

ゴルフ再開の阻害要因は「ゴルフクラブが振れない、頻尿と尿失禁、体力低下、肥満体」。本人の強みは「がんばり屋、ゴルフ大会での優勝経験(成功体験)、ゴルフ人脈」。半年後にバターゴルフができる、1年後に7番・8番アイアンを使ってハーフコースを回れることを設定。ゴルフ好きの理学療法士とアクションタスクをプランニングする。

3. アクションタスク(支援内容)と役割

短期目標ごとに支援内容を設定。本人が行うこと、リハビリ事業所や主治医・理学療法士、妻・子ども夫婦・孫娘、ゴルフコーチ、ゴルフ仲間ごとに「何ができるか」を整理する。

CADLプランニングのポイントは「心を満たす」こと。「じぶん物語のストーリーライン」で本人とチームのモチベーションアップをめざします。

*ケアタウン総合研究所のウェブサイトよりダウンロードが可能 https://caretown.com/write/dl/bo_kaigoyobou.pdf



高室しげゆき <https://caretown.com/>

ケアタウン総合研究所 代表(ケアプラン評論家)
京都市出身。日本福祉大学社会福祉学部卒業。2000年、ケアタウン総合研究所設立。ケアマネジャーを始め地域包括支援センター、行政、施設等に対してケアマネジメントを軸とした幅広いテーマで研修、コンサルテーションを行っている。主な著書に「新・ケアマネジメントの仕事術」(中央法規出版)、「地域ケア会議コーディネートブック」(第一法規出版)、「ケアマネ・福祉職のためのモチベーションマネジメント」(中央法規出版)など。著書多数。